資料４－１

益田市版「ツナガル」事業の実施状況（令和６年度下期）について

（県内高校卒業生とのつながり創出モデル事業）

１　各事業の実施状況

（1）オンラインでつながる事業　・・・　連携のまちづくり推進課

①益田市と関わり続けるコミュニティづくり

⇒　3/5　益田をぎゅっとつめこんだ１日

・今年度益田市の高校を卒業する高校生や、益田市の高校出身で県外に住む大学生が参加（14 名）

・益田で活躍するロールモデルとなる大人と出会った上で、参加者自身がこれからどのように益田と関わりたいかを考える機会の創出

②高校生・大学生等公式 LINE 登録周知

⇒　LINE 登録者数　1,275 名（2 月末時点）

・対話＋やインターンシップなど、学生が対象となるイベント時に周知の実施。（チラシ配布）

・高校３年生（令和６年度卒業生）への高校訪問による登録周知
（12/24 益田東高校、1/29 明誠高校、2/13 益田翔陽高校、2/18 益田高校、3/7 益田養護学校）

・ 1/4　二十歳の集いによる登録周知

③大学生へ市内イベント情報を定期配信　⇒　市内のイベント情報を配信中（年 2 回）
4 月・夏休みのイベント配信済み
春休みのイベント配信済み

④大学生に大学生や若手社会人の暮らし・市内飲食店・交通費助成等の情報発信

⇒　新規記事作成及びシェア　15 記事（神楽 week、大学生のライフキャリア、UI ターン者のライフキャリア、恩師のライフキャリア等）

⑤その他 SNS での情報発信

⇒「masuda_no_hito」（インスタグラム）のアカウント作成及び新規・過去記事のシェア。主にライフキャリアに関する記事をシェア　22 記事

「益田のひと」Facebook アカウントでの新規・過去記事のシェアを 2/12 から開始。シェアする記事は上記インスタグラムと同様

＜これまでの３年間の成果、課題等＞

		オンラインでつながる事業
成果	成果としてあげられる内容	・LINE 登録者数：1,275 名（2 月末時点） ・市内高校へ出向き周知することで、一定数の登録を促すことができた。 ・市内のイベントや暮らし等の情報発信は定期的に発進することで学生達と関わり続けることができた。 ・「masuda no hito」サイトの掲載記事をシェアし、相互に登録

		者、閲覧数の向上に努めた。）令和６年度から Instagram や Facebook でシェアを開始。）
課題分析	課題・原因	・より様々な記事を投稿し、より良い情報を発信したい。
	課題解決に向けた見直し及び今後の方向性	・LINE「ますだより」で繋がっている市出身者に加え、新たに保護者等にも登録の幅を拡げるとともに就職に関連する情報を発信。

(2) ひとづくりでつながる（つながり続ける）事業　・・・　産業支援センター

①インターンシップ等の情報発信

⇒　インターンシップ募集チラシ作成　春８社

⇒　ますだよりでのインターンシップ情報配信　1/20

⇒　島根県広島・大阪事務所、Link.しまね、大阪学生会館、東京・大阪拠点への情報提供（募集チラシの送付 12 月～1 月随時送付）

②益田版インターンシップの実施

⇒　インターンシップ等参加学生　春４名（予定）

③益田市内企業におけるインターンシップへの学生参加の協力依頼

⇒　12/6　「学生×しまね魅力企業交流会 in HIROSHIMA」での情報発信

⇒　島根県広島事務所、大阪事務所、Link.しまね学生就職アドバイザーへ情報提供

④地元体験プログラムの実施

⇒　長期休暇で帰省中の大学生向けプログラムの集約及び募集

プログラム数　春 13

参加学生　春２プログラム２名（予定）

⇒　ますだよりでの情報発信　1/24、2/6、2/18

⑤広島に進学する生徒との交流会

⇒　広島に進学・就職する生徒と現役大学生、広島事務所及び Link.しまね学生就職アドバイザーとの交流会を開催

3/6 開催　　参加者　高校生３名　大学生２名　学生就職アドバイザー3 名

＜これまでの３年間の成果、課題等＞

		参加人数に関すること	県内就職の意識向上に関すること
成果	成果としてあげられる内容	・島根県広島事務所、大阪事務所及び Link.しまね学生就職アドバイザーとつながりができ、情報発信等の幅が広がった。 ・インターンシップや地元体験プログラムの内容を伝えるウェブサイトページ及び募集チラシを作成、「ますだより」で配信した。 ・広島に進学する高校生と学生就職アドバイザーとの交流会を開催し、進学後のつながりを作った。	・広島事務所、大阪事務所、Lnk.しまねとのつながりができたことで、学生に個別に情報を届ける手段ができた。 ・帰省時に学生が気軽に参加できるプログラムの募集を開始した。

課題分析	課題・原因	・インターンシップ、地元体験プログラムどちらに関しても、学生の参加につながっていない。(参加があっても少数) ・学生参加につながらないため、受入側のモチベーション低下が懸念される。 ・ますだよりでの情報発信だけでなく、個別に情報を届けるなどの複数の情報発信手段が必要。	・インターンシップ等に参加する学生は、益田市での就職を視野に入れた学生が多いと推測されるため、それ以外の益田市での就職に興味をもっていない層に参加してもらう取組が必要。
	課題解決に向けた見直し及び今後の方向性	・地元体験プログラムの紹介ページをリニューアルし、より学生が見やすく、興味を持てるようなページにする。 ・ＳＮＳ等を活用し、より訴求力の高い方法での情報発信を検討する。 ・学生就職アドバイザーと益田市出身学生とをつなげていく取組を継続することで顔が見える関係性を作る。	・仕事体験やインターンシップは就職活動のイメージが強いため、その前段階で就職を意識せず、気軽に参加できる地元体験プログラム提供し、参加してもらう取組を行う。 ・地元体験プログラムを通して、益田での楽しい思い出や参加してよかったと感じてもらうことで、益田での暮らしや仕事に興味を持ってもらう。 ・低学年時のゆるやかなつながりから、就職活動期への接続を意識した事業を組み立てる。

(3) 東京・大阪拠点でつながる事業　・・・　協働のひとづくり推進課

①東京拠点を活かした取組の企画・実施

⇒　9/11　高津中学校修学旅行対応

⇒　9/23　イベント開催支援〔いわみのはちみつ講座〕＆交流会（12 名）

⇒　10/19　イベント開催支援〔スライド＆トーク　城郭探訪家が案内する石見二大山城攻略戦〕（10 名）

⇒　1/23～26　益田地域フェア

⇒　2/15　地域実習報告会 with 東京益田会

⇒　3/23　新入生・新社会人交流イベント（予定）

②大阪拠点を活かした取組の企画・実施

⇒　8/1～2　明誠高校通信制課程事業者を対象とした交流会（35 名）

⇒　8/12　定期交流会（15 名）

⇒　9/24　後期に向けての交流会（9 名）

⇒　12/28　年末交流会（25 名）

⇒　6/1、6/3、7/2、8/14、9/10、11/11、11/12、12/13、1/18、1/20、1/27
就労支援・相談（16 名）

⇒　7/20、1/25　U・I ターン者相談会（9 名）

⇒　4/23～25、7/5、8/9、8/19～24、8/30、8/31、9/1、9/6～9、11/21～24

益田ツアー（53 名）
⇒　11/2～4　大阪ツアー（12 名）
⇒　通年　コワーキングスペース提供

③2 拠点共通の取組
⇒　12/11　益田企業見学ツアーチラシ設置
⇒　12/21　市内企業インターンシップチラシ設置

＜これまでの３年間の成果、課題等＞

		参加人数に関すること	県内就職の意識向上に関すること
成果	成果としてあげられる内容	＜関東＞ イベント参加のべ人数 R4：15 人、R5：22 人、R6：39 人 うち市出身若者のべ人数 R4：1 人、R5：3 人、R6：5 人 ＜関西＞ イベント参加のべ人数 R4：99 人、R5：124 人、R6：227 人 うち市出身若者のべ人数 R4：推計 43 人、R5：79 人、R6：75 人	＜関東＞ ・地元回帰意識の醸成を意識した参加型トークセッションを実施。 ・益田地域フェアなど、ふるさと益田を感じられるようなテーマでのイベント実施 ＜関西＞ ・就労支援事業（セミナーやツアー）を開催 ・拠点施設において益田市内の企業、インターンシップ情報などを発信
課題分析	課題・原因	＜関東＞ 　市出身大学生の状況を把握できていないため、適切な情報発信ができず、参加者の確保や繋がりづくりを進めることが難しかった。 ＜関西＞ 　拠点利用により若者同士の繋がりが生まれたが、利用者が固定化されており、限定的な利用にとどまった。	＜関東＞ 　市出身大学生の参加は極めて少なく、ふるさと回帰の有効な取組とならなかった。 ＜関西＞ 　意識向上に向けた働きかけは十分できたが、市出身大学生の拠点利用者はまだ就職活動する年代ではなく、即効性があったとは言い難い。
	課題解決に向けた見直し及び今後の方向性	令和７年度から県が配置を予定している首都圏・関西圏での卒業生還流プランナーに情報提供を行い、連携を図りながら対応していく。	